



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

三鷹新川雲母保育園



テーマ【 食べ物（小麦粉） 】

設定した理由・背景

三鷹新川雲母保育園は食育に力を入れており、子どもたちは食材に触れる機会やクッキングをする機会にとても恵まれています。小麦粉粘土遊びを通して、水や小麦粉が混ざる様子や変化にとても興味を示していたので、クッキングや保育活動を通して、小麦粉の性質について探究ができるようにしました。

用意した環境設定

- ・小麦粉を使ったクッキングに必要な食材
(薄力粉、強力粉、砂糖、塩、生クリーム、牛乳等)

活動のあゆみ

『各日程で制作したメニュー』

- ・6月2日 「マフィン」
- ・8月21日 「どらやき」
- ・10月29日 「うどん」
- ・11月19日 「ピザ」
- ・12月24日 「ミルクレープ」
- ・1月19日 「ガーデンフォカッチャ」
- ・2月12日 「メロンパン」
- ・3月24日 「たこ焼き」

✽探究活動の実績✽

①どんな問いかけから始めましたか？

小麦粉遊びをする中で、粉のみの感触から「水を加えると、どのような感触になるのかな？」との問いかけを投げかけてみた。

またこの小麦粉料理を作るには「小麦粉と何を（例のイラスト掲示見せながら）混ぜたら良いと思いますか。」と問題形式にしてみると「しおかな？さとうかな？」と想像が膨らんだ。またクッキングをする中で、計量という作業も知ることができ「小麦粉や必要な材料の重さを計ってみよう」という問いかけをきっかけに興味をもつようになった。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

それぞれの小麦粉料理の水の量によって生地が粘ることに気が付いていた。「どんな感触かな、なにかこれと似てる感触のあるかな」と友だち同士でも会話が弾んでいた。また水の量や小麦粉の種類によって感触が変わることを体感できるように、「かたい？やわらかい？」と感触を意識できるような言葉掛けを行なった。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

小麦粉100gを実際に持ち、見た目と比べ「結構重たいね」と話したり、驚いた表情を見せたりしていた。

また、たこ焼きを焼く際に、生地に対して「パンは小麦粉粘土みたいなのに、たこ焼きはサラサラしているね」と違いを発見していた。

④終わりの時期の姿・まとめ

小麦粉を使った料理を年間を通して多く使われているのを知ることができた。また小麦粉には薄力粉・中力粉・強力粉と3種類あり、感触や調理工程により、完成する料理が違うことを知る機会となった。給食やおやつを食べる時も、「これは何が入っているのだろう」と食べ物への興味関心が高まったように思う。



どらやきを焼く様子



うどん生地を踏む様子



小麦粉の計量をする様子

まとめ

小麦粉から作られる料理について始めは子どもたちの理解があまりなかった。しかし、クッキングを通して小麦粉料理の種類について学びを進めると、小麦粉の種類や合わせる材料、調理方法によって生地の粘度や完成する料理が違うことを子どもたちなりに「なぜ違うのか」友だちと話して考える姿があった。子どもの発想力をヒントにクッキングを重ねると自ら探究する意欲が見られ驚いた。そしてクッキングの中で材料の計量や買い物での賞味期限について知り新たな発見、一つのテーマから子どもの疑問への展開ができたので、とても良い保育活動になったと思った。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

三鷹新川雲母保育園



テーマ【 自然 】

設定した理由・背景

自園の周囲は自然が多く、普段から触れる機会も多くある。公園では植物を集め、おままごとをしたり、持ち帰って観察したりする様子もあり、その姿からさらに探求心を持って活動できるような取り組みを行ってみたいかった。

用意した環境設定

- ・園庭の芝生化
- ・夏野菜の栽培（茄子、ピーマン、トマトの苗）
- ・お泊り保育（奥多摩キャンプ村）

活動のあゆみ

春：春の自然物を探す、また虫の観察を行なう。

園庭の芝生の成長を見守る。

夏：夏野菜や朝顔の栽培。またお泊り保育では園の周辺では見られない自然物との出会いを経験することができた。

秋：落ち葉を集めて製作に利用したり、この時期の虫の発見を楽しんだ。

冬：温かい時期との芝生の色の違いや、この時期の暖かい時期との環境の違いなど、戸外活動で感じれるようにした。

✧探究活動の実績✧

①どんな問いかけから始めましたか？

園庭が芝生化したことをきっかけに「何か前とちがうところはあるかな」等どんな違いがあるのか問いかけてみた。また野菜の栽培に向けて夏に育つ野菜を図鑑や絵本、栄養士に相談しながら何を育てて、実際に食べてみたいか聞いてみた。普段、身の回りにある自然物についても「図鑑に載っているかな？」と興味を沸くような言葉掛けをしたり、奥多摩にも同じ植物や虫がいるのか昨年度の写真で自分の地域と同じような環境なのか、想像が膨らむような話の流れを意識して行なった。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

園庭の芝生を触ってみて感触を確かめると「裸足で歩いてみたい」との子どもたちからの提案もあり、さらに寝転がるなど全身で芝生を楽しむ姿があった。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

新たな環境で発見をしたり、またお泊り保育を通して友だちとの関わりが増えたり、また保育者に発見について報告するなどコミュニケーションも多く取るようになっていった。また夏野菜の栽培に向けて、「夏に美味しいは何かな」と栄養士も含め話を進めながら野菜の苗を実際に見に行き、自分たちで育てたい野菜の苗を選んだ。芝生の中に新たな花や虫発見し、友だちや保育者と共有し喜んでいった。季節の移り替わりで芝生の色に変化してくると「かれちゃったのかな」と心配する姿もあったが気温の変化によって植物の様子も変わってくること知ることができたようだった。

④終わりの時期の姿・まとめ

各々で活動の種類は違ったが、皆で同じ遊びを共有し、その活動の中での発見や喜びを共感する経験を重ねることで他者との関わりを深め、また信頼関係を深めていった。また自然物へのさらなる興味や知識



成長した芝生の感触を確かめている様子



野菜の苗を植えている様子



お泊り保育での自然探索の様子

まとめ

保育者もどこまで方向性を示しながら探求活動に取り組めばよいのか、またその活動に繋げていくことに対して具体的な提案をしすぎてしまっても子どもたち自身の活動にはなくなってしまうのではないかと葛藤する場面が多くあった。日々の保育の中で子どもたちの目線に立って活動を広げていくためには保育者も視野を広げ、意識していかなければならないと感じた。来年度は今回の内容や結果を踏まえ、栽培を夏限定にせず年間を通して行なうことや、生き物や植物どちらかに焦点を絞って知識を深め、さらに活動の幅が広がるような環境の設定を行っていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

三鷹新川雲母保育園



テーマ【 言葉 】

設定した理由・背景

三鷹新川雲母保育園では、ワールドライブラリーの絵本を通して、アルファベットに興味は示し始めていた。さらに英会話教室が始まり、音でも英語に触れるようになり、さらに関心が高まっていった。

用意した環境設定

- ・オンライン英会話教室に必要な機器（PC、プロジェクター等）
- ・英語絵本、国旗カード、英語ポスター

活動のあゆみ

「英会話教室：毎週金曜日10:10～」

〈月のテーマ〉

- ・4.5月：くだものの色と形
- ・6.7月：身近なものの名前を知る
- ・8.9月：そらを見上げよう
- ・9月：季節の製作
- ・10.11月：身近なものに親しみを持つ
- ・12.1月：動物と自分のからだ
- ・2.3月：動物と自分のからだ
- ・3月：図書館訪問

✧探究活動の実績✧

①どんな問いかけから始めましたか？

「英語って知ってる？」の問い掛けから、国の違いについて絵カードの国旗を使って国の違いを知ることからはじめた。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

上記の問いかけにあまりピンときてない様子があったので、地図で国の場所などを示し視覚からイメージできるようにした。「日本はどこ」など自分たちが住んでいる場所から興味が広がったようだった。また講師の話している言葉は「ワールドライブラリーに書いてある言葉とおなじだね」ということを子どもたちにも伝え、身近に感じてもらえるような関わりをした。

③活動中の子どもたちの姿・声、

英会話教室が始まると緊張から萎縮してしまい、やりとりをするようになるまでは時間が掛かった。しかし機会や経験を重ねることで講師の真似をして言葉を発したり、歌を覚えたりと園生活の遊びの中でも友だちと一緒に口ずさむ様子が見られるようになった。また、図書館に出向いた際に英語が書かれている絵本に興味を示す様子があったり、季節に応じた製作活動や卒園アルバムの製作の中でも英語の絵本を見ながらアルファベットをデザインに取り入れて書いてみようとする様子が見られた。

④終わりの時期の姿・まとめ

毎週の英会話の時間を楽しみする様子が増え、講師の問いかけにも積極的に発言しようとする姿が見られるようになった。また普段の活動でも英語に親しもうとするなど、英語が自然と子どもたちの生活の中に浸透していく変化が見られた。



製作にアルファベットを書こうとしている様子



図書館で英語の絵本を探している様子

まとめ

日本語以外の言語に親しみを持つきっかけになったのか、製作に自らアルファベットを取り入れようとする姿や図書館で英語の本に興味を示す様子などが多く見られるようになっていった。異文化探究の取り組みでも、国の違いから、自分たちが生活する環境とは異なった場所や、人種が存在を知るきっかけになったのではないかと感じる。今回の子どもたちの姿から、引き続き来年度もさらに様々な国の存在を知る機会となる活動の場を設けたり、言語の違いにもより探究できるような環境を意識して行なっていけたらと思う。